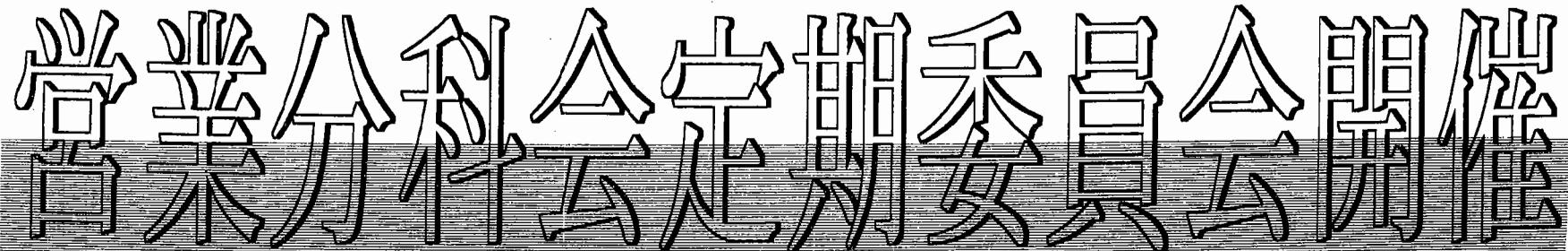




月刊 力千葉



六月一六日、千葉市において、第三回営業分科会定期委員会が開催された。

定期委員会には、分科本部役員・各線区選出委員総勢一八名

が参加し、営業における問題点や今後の闘いの方向性などを討議・確認した。

主催者あいさつにたつた渡辺会長は、「今年一月に一身上の都合で退職した。しかし、六〇才まで動労千葉組合員として活動したい。大会等には必ず出席するので見かけたらぜひ声をかけてほしい。」 「①昨年は、売店廃止によって二〇名の営業分科会の組合員がたらい回しにあつた。運転士に復帰を要求する組合員について、本人の希望を無視し、駅に残したり、検修職場へと再配転を強行した。断じて許せない。②JR総連が組織的な危機になつていて、勝負時がきていると感じる。営業職場に配転された組合員は、動労千葉の闘いを体言したからこそ強制配転となつている部隊である。ここ一、二年が勝負である。みなさんにさらなる団結を固めてもらいたい。」と激励のあいさつが行われた。

来賓のあいさつとして、本部・田中書記長があいさつし、国鉄をめぐる決戦情勢を明らかに、「この間の流れは、国労を取り込み、JR総連を切るという方向だつたが、国労・動労千葉破壊に大きく舵が切られたと見なければならない。当局ーJR総連一体の組織破壊攻撃について、かなりの時もストに入る体制を構築した。当面の焦点は、木更津

支区における脱退強要一幕張電車区の有機溶剤使用業務であるが、営業職場も無関係ではない。いつでもストに入れる体制を築いて欲しい。」と本部の考えを提起した。

続いて外山委員が経過報告、佐藤委員が情勢・方針、浜野事務局長が決算・予算について提起し、質疑応答に入つていった。

各委員から、

①ここ五年で組合員が出向・退職年令を迎える。五〇代になると当局が陰に陽に圧力をかけ、退職に追い込まれたというケー

スも増えてくるのではないか。本部としては五五才・五七才出向問題について、今後どのような考えでいるのか。

②うちの組合員が配置される直営店舗について、一二月にまたも閉店となるウワサが出ている。

③千葉駅で「JC店」を開店するという話が出ているが、本当か?

④六月より各駅でサービスミニ研修が行われようとしている。どのような体制で行われ、要員的な問題はきつとしているのか。などの意見が出された。

最後に退任された渡辺分科会長に変わって、佐藤新会長はじめとする新役員体制を選出し、出席者全員が強制配転された時の怒りを忘れることなく、営業職場の労働条件改善・営業合理化阻止、反合・運転保安確立の先頭に立つことを確認し、営業分科会定期委員会は終了した。

新役員体制

役職	氏名	支部
会長	佐藤 博	総武
副会長	永井 一	銚子
事務長	浜野 善弘	津田沼
常任委員	岡安 正人	総武
同	吉野 六郎	鴨川
同	鈴木 敏夫	木更津
会計監査	吉野 義章	京葉
同	外山 義成	武

